



津島小学校

双葉郡浪江町大字下津島字宮平 109



地域とのつながりを 大切にする校風

津島小学校は、1983（昭和58）年に津島小学校・津島第二小学校が統合されてできた学校です。校舎はその翌年に建築されました。豊かな自然に恵まれ、地域住民とのつながりを大事にしてきました。学校緑化に努め、2001（平成13）年度にはみどりの少年団を発足。「花いっぱいコンクール」では2005（平成17）年度と2008（平成20）年度の2度にわたり、県より表彰を受けています。さらに家庭や地域とのつながりを象徴するように、1995（平成7）年度には県PTAの団体表彰を受賞。2004（平成16）年度からは地区民による体育祭「津島ふれあい体育祭」を実施。これは全区民参加による、笑顔と歓声にあふれた最高の体育祭でした。

校 歌

作詞/今野 寿男 作曲/天野 秀延

- 朝もや晴れる 天王の
山のみどりの 日に映えて
希望あふれる 津島校
歌えよみんな ほがらかに
学びの窓に 喜びを
- さざなみ光る 津島川
もえる五山の 若松は
すくすく強く のびていく
励め今こそ 新しい
文化の花を 咲かそうよ
- 思いははるか 太平洋
かおる歴史の 夢うたう
堤ヶ入の わが母校
とべよ若鷹 風きって
理想の空を 一すじに

沿革

明治 8年	津島字西館 18 番地の如意輪寺に野川小学校の分校として開設	昭和61年 11月	交通功労団体表彰
9 年 2月	野川小より分離、津島小を開設（津島字西館 10 番地）	62年 1 月	校門、校標記念碑完成
25年 3月	昼曽根分校認可	62年 8 月	校庭フェンス、体育用砂場設置
31年 3月	高等科併設、津島村尋常高等小学校と改称	平成元年 3月	相撲土俵完成
昭和16年 4月	国民学校令施行により津島村国民学校と改称	2 年 4月	バックネット設置
22年 4月	6・3 制実施により津島村立津島小学校と改称	4 年 3月	飼育小屋設置、ツツジ定植
22年 6月	手七郎分校認可開設	4 年 8 月	学校前坂道舗装工事
23年 1月	赤宇木分校認可開設	6 年 8 月	学校前坂道舗装第 2 期工事
25年 6月	羽附分校認可開設	7 年 9 月	県 PTA 団体表彰受賞
27年 4月	赤宇木分校が津島第二小として分離独立（昼曽根分校も津島第二小所属）	13年 2月	みどりの少年団発足
31年 5月	津島村が浪江町に合併、浪江町立津島小学校と改称	14年 1 月	県書写展学校賞受賞
31年 11月	現在地に新校舎竣工	14年 10月	第 18 回 県へき地小規模学校教育研究大会双葉大会研究公開
33年 3月	新校舎第 2 期竣工	15年 10月	階段手すり取り付け
34年 11月	管理棟竣工	16年 9 月	保育所・小学校・中学校・地区合同による津島ふれあい体育祭開催
38年 4月	校歌・校旗完成	17年 5 月	「子ども見守り隊」発足（津島地区老人クラブ）
39年 11月	給食室工事完了	17年 12月	花いっぱいコンクール県教育長賞受賞
40年 3月	羽附分校閉鎖、本校へ統合	18年 6 月	学校環境緑化モデル事業完成式典
43年 7月	体育館竣工	20年 11月	花いっぱいコンクール優秀賞受賞
48年 10月	津島地区学校給食共同調理場開設	23年 3 月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
49年 3月	手七郎分校閉鎖、本校へ統合	26年 4 月	津島小学校再開、浪江小との合同授業開始
50年 3月	創立 100 周年祭並びに記念事業	26年 10月	ESD 日本の優良事例 30 に「ふるさとみえ科」の実践が紹介
52年 11月	校舎西側砂防工事完了	27年 12月	「なみえっ子カルタ」町長への贈呈式
54年 3月	昼曽根分校閉鎖	28年 10月	教育奨励賞努力賞受賞（時事通信社）
55年 9 月	玄関、校長室の拡張、トランペット鼓笛隊編成、山村教育県大会実施	29年 3 月	「んだげんちょ DVD」町長への贈呈式
56年 9 月	東北 PTA 大会で受賞	29年 9 月	「かなえよう子どもたちの夢プロジェクト GO!GO!GO!」学校賞受賞
58年 4 月	津島小・津島二小が名目統合	29年 12月	第 5 回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール全国大会出場
59年 3 月	新校舎完成	30年 10月	「んだげんちょ NEW バージョン」制作
59年 4 月	新校舎移転、実質統合 校章の改訂	令和元年 2 月	浪江と多摩をつなぐ交流のつどい参加
60年 3 月	体育館竣工	3 年 2 月	「10 年間ふるさとみえ博物館」完成・披露式
60年 7 月	プール完成	3 年 3 月	「10 年間ふるさとみえ大事典」制作、休校
61年 2 月	校章制定、落成記念式典挙行、校旗設置		
61年 4 月	校庭拡張整理完了、体育用具室完成、校庭拡張整理完了		

「ふるさと追想」

浪江のこころ通信

令和 2 年広報なみえ
5 月号より抜粋



津島はかけがえのない故郷

今野 義雄さん（津島出身・群馬県在住）

津島小から津島中に進み、東京で就職した後に群馬県に移住。過疎地の医療確保や医療不足に取り組んできました。震災前の津島には「診療所を守る会」があり、医師確保などに努力していましたが、津島への想いが群馬県での私の活動の原点です。“津島の獅子舞”や“田植踊り”を懐かしく思いますし、変わらぬ山や川、何よりも空気が違う津島に帰るといつもほっとしていました。「ふるさと津島を映像で残す会」のドローン映像の完成が楽しみです。なくなってしまうかもしれない故郷の姿を孫や次世代に伝えたいです。避難指示解除されても戻る人が少ないのは残念ですが、迷っている町民や子どもたちが安心して帰れる状況を早く作ってほしいものです。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



学習発表会



1年生 紙芝居 (2006年)



旧校舎



現在の校舎



豊かな体験活動



農園

震災直後の記録とその後

発災後、全校児童が校庭に集合しました。余震が続く中、校歌などを歌い、気持ちを落ち着かせ励まし合いながらつらい時間を耐えていました。翌日、原発事故の発生を受け、浪江町民は津島方面に避難するよう指示が出ました。最大で1,200人を超える町民が学校に避難してきました。15日に避難命令が出され、全員が津島小学校を後にしました。4月からは全児童が避難先の学校に通うこととなりました。2014（平成26）年度から二本松市下川崎の旧下川崎小学校をお借りし、浪江小学校との連携により学校再開を果たしました。ここで少人数ながら、きめ細かな指導が行われました。総合的な学習は「ふるさとなみえ科」と称し、今までの浪江町の素晴らしいところ、浪江町の今後の復興について深く学びを進めました。



教室の様子（震災後）

津島小学校休校式

2021（令和3）年3月23日

避難先の二本松市に仮校舎を置く津島小学校は、2020（令和2）年度の卒業で在籍児童数がゼロとなるため休校となりました。津島小学校は1876（明治9）年2月に開校し、1983（昭和58）年度に津島第二小学校と統合、明治9年からの総計で数えると4,383人の卒業生を送り出した地域の小学校でした。最後の在校生となった須藤嘉人さん（12）が教職員や地域住民に「一人だけの学校生活だけど、少しもさみしくなかった」と感謝の言葉を伝えました。



「10年間ふるさとなみえ博物館」を開設

2021（令和3）年2月、二本松市に拠点を移していた津島小の唯一の在校生、須藤嘉人さんが、浪江町と二本松市の伝統文化を伝える博物館を開設しました。同博物館は、二本松市の浪江小と津島小の、「ふるさとなみえ科」の10年間の歴史を伝えるためのもので、特に「なみえっ子カルタ」は浪江町の風景や文化が描かれています。震災で避難して、ふるさとを失って悲しんでいる人を喜ばせ、元気づけたいという児童の思いがあふれており、町教育委員会では、これらの展示物の保存について「できる限り大切に扱いたい」と考えています。



浪江焼麺太国太王衣装



「カルタ」「大堀相馬焼」など
浪江町の風景や文化を展示



「なみえっ子カルタ」の展示



二本松市の祭り・特産物も交えた展示物



浪江中学校

双葉郡浪江町大字川添字南大坂 28



地域の拠点校として 歩んだ誇りある校風

浪江中学校は、1970（昭和45）年に旧浪江中、大堀中、苅野中の3校が統合し、新たな浪江中学校としてスタートしました。1972（昭和47）年には、太平洋の荒波を丸くデザインした校旗と、いわき市出身の詩人・草野心平氏、日本を代表するクラシック作曲家・團伊玖磨氏による校歌が制定されました。学校生活では、文部科学省の「学力向上フロンティアスクール」「学力向上拠点形成事業推進校」の指定を受けるなど、学力向上に力を入れてきました。また部活動においても県大会、東北大会、全国大会にも多くの部が出場し、好成績を収めていました。またボランティア活動でも2008（平成20）年に10年以上にわたる浪江駅清掃に対して東日本旅客鉄道株式会社より感謝状が贈られるなど、地域の拠点校として歩んできました。

校歌

作詞／草野 心平 作曲／團 伊玖磨

- 阿武隈の 山脈はるか
群青の 天に雲沸き
仰ぎ見る 若人われら
おお 友よ 相集い
扶けあいつつ ただ一途
扶けあいつつ 真理きわめん
浪江 浪江 われらが母校
栄えある校旗
風にたなびけ
- 太平洋 永遠にとどろき
注ぎ入る 高瀬 泉田
ここに建つ 白き学び舎
おお 友よ おおらかに
強くはげしく ひたすらに
強くはげしく 理想を生きん
浪江 浪江 われらが母校
その精神よ
光り輝け

沿革

昭和22年 4月	浪江小学校に併置し開校	平成13年 11月	北棟第一期大規模改修工事
25年 9月	新校舎落成	14年 4月	文部科学省学力向上フロンティアスクール指定
29年 2月	学校給食開始	14年 8月	全日中柔道大会男子個人出場
32年 3月	校歌制定（作詞／和田甫 作曲／天野秀延）	14年 11月	北棟第二期大規模改修工事
32年 9月	中学校創立 10 周年記念大運動会開催	15年 8月	全日中柔道大会男子個人女子個人出場
33年 2月	創立 10 周年記念学習発表会開催	16年 1月	全日本卓球選手権大会女子個人単出場
42年 11月	中学校創立 20 周年記念式典	16年 3月	全日中卓球大会女子団体出場
43年 3月	浪江中学校同窓会結成	16年 11月	全日本卓球選手権大会女子個人単出場
45年 4月	学校統合により浪江中学校創設	17年 3月	全日中卓球大会女子団体出場
46年 3月	統合校舎第一期工事完成	17年 4月	文部科学省学力向上拠点形成事業推進校指定
47年 2月	校庭・校歌制定	17年 8月	全日中卓球大会女子団体出場 全日中剣道大会女子個人出場
48年 8月	プール完成 体育館完成	17年 11月	全日本卓球選手権大会女子個人単出場 全日本中学校英語弁論大会出場
53年 6月	校庭全面芝生張り	19年 6月	体育館ステージ用大型電動スクリーン設置
54年 11月	文部省指定生徒指導研究会	19年 8月	全日中水泳大会男子 100m 自由形出場
55年 11月	統合 10 周年記念歌碑建立	20年 10月	10年以上にわたる浪江駅清掃ボランティア活動に 対し東日本旅客鉄道株式会社より感謝状
58年 2月	西地区学校給食共同調理場落成	21年 8月	全日中陸上競技大会女子走幅跳出場
60年 8月	全日中柔道個人出場	22年 8月	全日中陸上競技大会男子走高跳・女子走幅跳出場
60年 10月	県 PTA より PTA 団体表彰	22年 9月	体育館耐震補強工事
61年 1月	全国安全優良校表彰	22年 11月	太陽光パネル設置工事
62年 3月	全日中ソフトボール大会出場	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
平成元年 6月	相撲場完成	23年 8月	二本松市針道に設置場所を変更して学校を再開 校名表札を設置（馬場町長）
元年 11月	統合 20 周年記念式典	24年 5月	遍照寺住職・柴義彰様よりノートパソコン 25 台寄贈
2年 3月	全日中ソフトボール大会出場	24年 7月	チェコ保護滞在プログラム参加
3年 3月	校舎落成（多目的ホール）	26年 2月	サウジアラビア王国皇太子との接見
3年 8月	全日中陸上競技大会出場 全日中相撲大会個人出場	27年 12月	全国人権作文コンテスト学校賞
6年 6月	体育館改修工事	28年 1月	日産財団理科教育助成金受領
7年 8月	全日中女子バレーボール大会出場 放送設備全面改修完了	28年 7月	文部科学大臣視察
8年 4月	福島県書写書道研究推進校	29年 1月	「浪江と多摩をつなぐふるさとをつどい」参加
9年 1月	国際協力に関する作文郵政大臣賞受賞	29年 3月	自主制作 CD・DVD「未来への光へ」完成
9年 8月	全日中女子バレーボール大会出場	29年 8月	日本テレビ「24 時間テレビ」出演
9年 10月	全日本書写書道教育研究会公開	30年 3月	浪江中学校記録誌作成
10年 8月	全日中柔道大会女子個人出場	30年 7月	日産財団理科教育賞受賞
11年 8月	全日中柔道大会女子個人出場	31年 3月	休校
12年 8月	全日中柔道大会女子個人出場	令和 2年 7月	浪江中学校見学会を開催
12年 12月	南棟大規模改修工事	3年 3月	閉校
13年 8月	全日中柔道大会女子個人出場		

「ふるさと追想」

浪江のこころ通信

平成 25 年広報なみえ
12 月号より抜粋



浪江の友達と、社会人になって出会いたい

今泉 翔太さん（福島東高）

震災当日は中学校の卒業式で、家に帰っていました。家の一部が壊れましたが、家族は無事でした。その後の避難所の生活は本当に長く感じられました。避難先の福島東高校に編入し、ずっと続けていた野球部に入部しました。ショートを守り、3年生の春は東北大会ベスト4、夏は県大会ベスト4という成績を残すことができました。来年春、野球推薦で大学に進学することが決ったので、選手として活躍できるように頑張りたいです。将来は教員になって、高校野球の監督を目指したいです。これからは僕らが社会の主役になって活躍することになります。バラバラになってしまった浪江の友達と、社会人として活躍する姿で会えることを願っています。

震災前の学校の風景



卒業メッセージ



授業風景



地区大会



壮行会



震災前の校舎



秋桜祭

震災・原発事故からの道のり

発災の日には卒業証書授与式の日。浪江中学校は、町民の避難所になりました。停電の中、暗く寒い一夜を過ごし、その後の原発事故のため全町避難。生徒は避難先の学校に区域外就学することとなりました。そして町機能の移転先二本松市で準備を進め、8月には、二本松市旧針道小で中学校を再開しました。震災当時398人だった生徒は32人に減ってしまいました。翌2012（平成24）年3月には浪江中学校卒業式が行われ、14人の卒業生を針道校舎から初めて送り出しました。

震災の年も途切れることのなかった浪江中の伝統である文化祭「秋桜祭」は、2018（平成30）年度は全校生4人が力を合わせて学習の成果を発表しました。針道校舎からは2018（平成30）年度まで計95人の卒業生を送り出しました。

しかし浪江中学校の輝かしい伝統は、なみえ創成中に引き継がれていくことと思います。



浪江小学校・浪江中学校合同開校式（2011年8月）



卒業式（2012年3月）



郡山市にて、子ども交流会（2012年8月）



秋桜祭（2013年）



校外学習（2015年度）



漁港見学（2018年度）